



巻頭言

## 理事長就任にあたって

長谷川 嘉 雄\*

このたび津和秀夫理事長の後任として理事長に就任することになりました。本協会は戦後の混乱期昭和24年1月に設立され、やがて満40年を迎えようとしています。人間でいえば不惑に当るこの節目の年に由緒ある協会の理事長という大役を務めますことは光栄であると同時に責任の重大さを痛感している次第です。

池田悦治元理事長が記された生産技術振興協会の歩みを拝読しますと、発起人総会には大阪大学理学部長赤堀四郎先生、同工学部長七里義雄先生、松下電器産業株式会社取締役社長松下幸之助氏をはじめ錚々たる方々や顧問の大阪大学総長今村荒男先生が出席されております。資源に乏しいわが国の進むべき最善の道である工業立国には、生産技術の振興が不可欠であるとして、この実現に生産一丸となって努力されたのがうかがえます。今日さかんに唱えられている産学協同の必要性にいち早く着眼され、実行された先輩諸賢の先見の明には頭の下がる思いがいたします。

崇高な使命感に燃えて発足した協会でありましたが、経済的には苦難の時代が続きました。前理事長の時代に、協会の活性化をはかるべく事業企画委員会が発足しました。大阪大学の先生方はじめ委員の方々の並々ならぬ

ご尽力により、ハイテク時代を反映したハイテクセミナーや異業種間の交流をめざしたトップセミナーが開催されるようになりました。おかげをもちまして多数の会員の方々にご参加いただき好評を博しており、協会の運営も経済的に健全な姿になりつつあります。現在協会が行っている主な事業内容は、①研究の斡旋委託、②セミナーの開催、③機関誌の刊行であり、3本柱の基盤が築かれた段階だと思えます。この基盤を時代の流れに即したより堅固なものに発展させていくことがこれからの課題であると考えています。

今日、わが国は経済的にすばらしい発展を遂げましたが、NIESの激しい追い上げ、貿易摩擦、企業の海外への工場進出に伴う空洞化現象など前途はまことに厳しいものがあります。ここで道を誤ると将来に大きな禍根を残すことになりかねません。より付加価値の高い独創的な製品を適正な価格で供給していただくだけでなく、いかにして日本が人類の幸福に貢献していくか真剣に模索していかなければならない時期にきていると思われます。

微力ではありますが、協会の発展に尽力したいと念じておりますので、会員の皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

\*長谷川嘉雄 (Yoshio HASEGAWA), 摂南大学工学部, 機械工学科, 教授, 工学博士, 機械工作, 大阪大学名誉教授